

ガボン共和国月報（2015年4月）

2015年4月号

在ガボン日本国大使館

主な出来事

【内政】

- 2015年政府予算修正案の閣議承認
- ロゴンベ前上院議長の死去
- 有力野党指導者の死去

【外政】

- ボンゴ大統領のECCAS事務局長との会談
- ボンゴ大統領のCEMAC事務局長との会談
- ボンゴ大統領によるコートジボワール訪問

【経済】

- CEMACによる加盟国域内経済成長予測：4.2%
- 光ファイバー通信網及び海底通信ケーブルの開発
- 中国 Addax 社従業員による無期限ストライキ

【内政】

1 野党UPGの内紛

野党UPGにおいて、執行委員会の決定を無視して身勝手な言動をとったとしてムバンバ書記長がブンバ・ンジエンギ幹事長によって党から追放された。それ以降、同党内で緊張が高まっており、分裂の危機に直面している。（2日付UN）

2 ボンゴ大統領のポールジャンティ訪問

4日、ポールジャンティを訪問したボンゴ大統領は、ポールジャンティーオンブエ間の道路建設及びポールジャンティ空港改築の進捗状況を確認した。（7日付UN）

3 ボンゴ大統領による女性リーダーたちとの懇談

7日、ボンゴ大統領は、自ら2015-2025年を「女性の10年」と定めたマコク宣言を実行に移すため、20数名の女性リーダーと昼食を取りながら女性の社会進出・労働活動の促進等につき意見交換した。

4 当局による野党集会の阻止

9日、野党連合「野党統一戦線」（FOPA）は首都リーブルビル市内リオ広場において集会を開催する予定であったが、当局から開催の許可が下りていないとして、警察及び警官隊は同広場に繋がる全ての道を封鎖し、野党指導者及び支持者のアクセスを阻止した。（10日付UN）

5 2015年政府予算修正案の閣議承認

昨今の油価低迷による石油収入の大幅減額の見通しを受け、10日の閣議において、昨年

10月に承認された2015年政府予算案の修正が承認された。予算総額は、当初案の3兆733億CFAフラン（約46.9億ユーロ）から4,221億CFAフラン（約6.5億ユーロ。当初案の13%相当）減額し、2兆6,512億CFAフラン（約40.4億ユーロ）となった。（10日付官報）

6 ロゴンベ前上院議長の死去

10日、2009年に暫定大統領を務めたロゴンベ前上院議長が療養先のパリで死去した。享年73歳であった。（11日付GR）

7 与党による集会開催

11日、与党PDGは「平和のための行進」をリーブルビル市内で実施した。ボンゴ大統領は、野党の象徴的な場所であるリオ広場で演説を行い、ガボン国民は先祖代々継承してきた愛国心、祖国への敬意及び国家の統一を責任を持って引き継いで行く必要がある旨述べ、右価値観に反する暴力によって国家の二分を企む野党勢力の言動を批判した。（13日付UN）。

8 有力野党指導者の死去

12日12時、最有力野党・国民連合（UN）のカリスマ的指導者であるアンドレ・ンバ・オバム幹事長が療養先のカメルーン・ヤウンデで死去した（享年57歳）。同氏は、2009年大統領選挙でアリ・ボンゴ大統領に敗れた後に原因不明の重度の病に冒され、チュニスでの治療のため2013年10月5日にガボンを出国していた。2016年大統領選挙に向けて結束を図っていた野党は同氏の帰国を強く待ち望んでいただけに、同氏の死去は野党指導者及び支持者に大きな動揺を生んでいる。（13日付UN）

9 ベナン大使館に対する放火・破壊行為

12日19時30分頃、首都リーブルビル市内アンシエンヌ・ソブラガ地区に位置するベナン大使館が何者かによって放火され、同建物一部が崩壊及び延焼した。同日12時頃に野党・国民連合（UN）のアンドレ・ンバ・オバム幹事長が療養先のヤウンデで死去していることから、同犯行は、同カリスマ的指導者が病死に至った直接的な原因はベナン出身のボンゴ大統領側近が間接的に毒殺を図ったことにあるとの見方を信じ、同幹事長の死去を契機に同官房長に対する恨みを晴らそうとした野党支持者によるものであるとの見解が当地で一般的である。（13日付AFP, GR）

10 ボンゴ大統領によるムイラ訪問

14日、ボンゴ大統領はングニエ州ムイラを訪問し、ムイラーデンデ間及びンデンデーチバンガ間の幹線道路建設の進捗状況につき説明を受けた。また、Olam社のヤシ園やフガム近郊に位置するマンディル士官養成学校を訪問した。（14日付UN）

【外政】

1 ガボン・ECCAS/CEEAC関係

1日、ボンゴ大統領は、アハムド・アッラームミ中部アフリカ諸国経済共同体（ECCAS/CEEAC）事務局長と会談し、当該地域におけるボコ・ハラムの脅威及びその対策

につき協議した。(1日付UN)

2 ガボン・ブルンジ関係

1日、ボンゴ大統領は、ンタカルリマナ特使からンクルンジザ大統領の親書を受け取り、二国間関係の強化及びブルンジが関心を寄せる「ガボン台頭化戦略計画」(PSGE)について意見交換を行った。(1日付UN)

3 ガボン・CEMAC関係

7日、ボンゴ大統領は、ムサ中部アフリカ経済通貨共同体(CEMAC)事務局長の表敬を受け、油価低迷の影響を受ける域内加盟国の経済情勢及びCEMAC臨時事務局のリーブルビルでの開設(注:国内情勢の悪化を受けてバンギの事務局は閉鎖)につき協議を行った。(8日付UN)

4 ガボン・国連関係

21-23日、当地訪問中の国連薬物犯罪事務所(UNODC)専門家は、ガボン不正利得撲滅委員会(CNLCEI)と共に、ガボンの公的・民間セクターにおける腐敗の実態につき調査・分析を行った。UNODCは、ガボンに対し、同国が2004年に批准した国連腐敗防止条約の適用、技術支援及び汚職予防・撲滅に向けた国際協力の促進に係る協力をを行っている。(21日付GR)

5 ボンゴ大統領によるコートジボワール訪問

25日、ボンゴ大統領はアビジャンを訪問し、本年10月の大統領選挙に向けたウワタラ大統領の立候補公認式典に出席した。(26日付PR)

【経済】

1 CEMACによる加盟国域内経済成長予測

中部アフリカ経済通貨共同体(CEMAC)は、2015年の加盟国全体での予測経済成長率は4.2%に上る旨発表した(2014年は4.4%)。また、インフレ率は2.8%及び財政黒字は域内総生産比6.3%になる旨予測。(2日付UN)

2 ガボン国内におけるインターネット通信障害の発生

3日、リーブルビル市内に敷設されているガボン・テレコムの子会社による海底通信ケーブルが人為的に3カ所で切断せられているのが発見された。これにより、国内のインターネットは4日間通信不能に陥り、官庁、企業及び商店等で混乱が生じた。(4-6日付GR)

3 モロッコ CimGabon 社への資本投入

9日、モロッコ Cimaf グループ副社長はオナ・オンド首相と会談し、CimGabon 社に対して再度資本投入する考えであるとの株主の意向を伝えた。オナ・オンド首相は、国内におけるセメント需要は70万トンに上るとして、CimGabon の株式25%を保有同グループに対してセメント生産量を現在の40万トンから1年間で90万トンまで引き上げる旨要請した。(10日付UN)

4 光ファイバー通信網及び海底通信ケーブルの開発

8日、ガボン政府は、公益法人 Spin 社及び Axion/Bouygues Energie & Services 社との間

で、光ファイバー通信網国内拡張計画（フェーズ1）及びACE（海底ケーブル）の敷設計画に係る協定の署名式を開催した。右協定により、Spin社が右計画の責任者となり、Axion/Bouygues社が開発、メンテナンス、オペレーターやプロバイダーに対する販売を担うことになる。なお、本計画は世銀から5,800万米ドルの融資を受けて実施される。（9日付UN）

5 中国 Addax 社従業員による無期限ストライキ

14日、中国 Addax 社従業員が無期限ストライキに突入したため、同社は、日量22,000バレルを生産するオバンゲ鉱区及びツイエンギ鉱区での生産を停止せざるを得なくなった。17日時点での同社の経済損失は22億CFAフラン（300万ユーロ相当）に上っている。（21日付UN）

出典：PR(大統領府公式HP), UN(ユニオン紙), GM(ガボン・マタン紙), GN(ガボン・ニュース電子版ニュース), AFP, GA(Gabonactu.com), GR(ガボン・レビュー電子版ニュース), LG(ル・ガボン電子版ニュース), GE(ガボン・エコ電子版ニュース)